

「最初の日、今日、そしてキリストの日」

ピリピ人への手紙 1章 1～11節



「使徒の働き」によれば、ピリピの教会は、パウロたちによってヨーロッパで最初に生み出されたクリスチャンの交わりです。このピリピ人への手紙を読むと、パウロのピリピ教会に対する強い愛着とともに福音宣教のゴールに対する彼の情熱が感じられます。

彼はこの手紙の冒頭の部分で、私たちの生き方と働きを決める三つの時について語ります。それは、「最初の日」「今日」そして「キリストの日」です。

① 最初の日からの歩みを喜び、感謝します

“私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝しています。あなたがたすべてのために祈るたびに、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。” 3-5

“私は、あなたがたのことを思い起こす度に、私の神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。それは、あなたがたが最初の日から今日に至るまで、福音にあずかっているからです。” 3-5、聖書協会共同訳

② 主がその働きを完成されることを信じ、私たちの今日の働きをすすめます

“あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。” 6

“その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニアに渡ることにした。彼らに福音を宣べ伝えるために、神が私たちを召しておられるのだと確信したからである。” 使徒16:9-10

③ キリストの日を待ち望み、その日に備えます

“私はこう祈っています。あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように。こうしてあなたがたが、キリストの日に備えて、純真で非難されるところのない者となり、イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされて、神の栄光と誉れが現されますように。” 9-11